

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3890100666
法人名	有限会社やわらぎ
事業所名	グループホームいくし
所在地	松山市生石町472番地
自己評価作成日	平成27年10月27日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成27年11月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<ul style="list-style-type: none"> ・生活の中で季節感が味わえる環境づくり。 ・利用者、家族、職員が家庭的な雰囲気の中で互いの考えや相談できる関係づくりを目指している。 ・グループホームで安心して最後まで暮し続けることができるケア。 ・職員一人ひとりが持ち味を発揮し、和やかな雰囲気づくりを心掛けている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

<p>1月には、近所の神社に初詣に出かけている。4月のお花見は、ご家族も誘い、利用者全員で出かけたり、近所のスーパーのお弁当を持参している。ドーナツショップや近所のパン屋のイートインの利用等、少人数で外出する機会が多い。利用者によっては、併設小規模多機能事業所の外出時に同行する等して、外出の機会を多く持てるよう支援している。車イスの方も、近くのコンビニでお菓子等の買い物ができるよう支援している。</p> <p>利用者個々に、洗濯物たたみや草花の水やり等、役割を持って生活できるよう支援している。又、裁縫が得意な利用者には、雑巾を縫ってもらう等して活躍する場面を作っている。</p>
--

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない 	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない 	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 	68	職員から見て、利用者の家族等がサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目：28)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 		<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホームいくし

(ユニット名) _____

記入者(管理者)

氏名

田村 富美子

評価完了日

2015年 10 月 27 日

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 理念に立ち返る機会が少ない。努めているが、実践に繋がっていないこともある。	
			(外部評価) 三項目からなる法人理念を事業所理念とし、玄関を入ったところの廊下に掲示している。管理者は、理念の一つにある「人間としての尊厳を大切にし、自己決定権と個性の尊重」に努めることが、一つの理念「毎日がイキイキ・ワクワクと過ごせる」の実践につながることを職員に話している。法人では、理念に沿ったケアが実践できたか点検するために「振り返りシート」を作成しており、現在、職員が取り組んでいるところである。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 運営推進会議等で地域の方に知っていただける機会が昨年よりは増えた。個別支援で地域の方の協力のきっかけができたが、継続できなかった。行事に限られている。	
			(外部評価) 管理者が町内会の総会や市民大清掃に参加している。事業所行事で芋掘りに出かけたり、年末の餅搗きの際には、近隣の方にもおすそ分けをしている。同じ敷地内の併設小規模多機能事業所と合同で夏祭りを開催しており、近隣の方にもポスティング等で案内している。高校生やボランティアの楽器演奏の訪問もある。運営推進会議時には、自治会長や民生委員から地域行事の誘いがあるが、現在、職員の手不足等のこともあり、参加することは少ない。利用者が地域の中に出かけて活動できるよう、地域の協力者を増やしてはどうだろうか。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 地域の方が来所される機会に直接、ホームで生活されている方にふれあう機会ができたり、ご家族の話を直接、聴きかけができつつある。ホームからの情報発信がほとんどできていない現状。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 報告や取り組みの現状を伝えている。課題も取り上げながらもその場で終わってしまうことも多い。	
			(外部評価) 会議は、併設事業所と合同で行っている。自治会長や民生委員1～2名、近隣の方3名、又、ご家族1～2名、利用者と職員も交代で参加している。昨年11月の会議では「外部評価を活かして」をテーマに報告を行い、参加者の意見をうかがった。今年から、開催場所を交互にしており、参加者は事業所内を見学したり、利用者と交流している。管理者は今後、会議を活かして「認知症の勉強会をしたり、行事だけでなく日常の様子も報告したい」と話していた。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議の場が主で、日常的には機会は少ない。	
			(外部評価) 運営推進会議時に、市の担当者から食事について「利用者と一緒に作る等、共に行う事も大切」とアドバイスがあった。地域包括支援センターの担当者には、空室情報を伝えて連携を取るようにしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 27年度は法人で「虐待および身体拘束防止について」の委員会をつくり、研修委員を中心に研修を行って各事業所に持ち帰り、学習する機会をもっている。グレーゾーンと言われる、不適切なケアにつながらないよう、意識や見直す機会は増えたと感じる。	
			(外部評価) 今年度は、法人で年間計画を立てて身体拘束防止の研修会を実施しており、事業所からも委員1名が参加して、後日、事業所内で報告して勉強する時間を持っている。日中は、玄関に施錠せず、廊下と玄関の間にあるカーテンに鈴を付ける等して利用者の行動を見守っている。現在、ベッドから転落の恐れがある利用者3名に、ご家族の了解を得てベッド柵を付けている。毎月のモニタリング時に状況を報告して話し合い、記録を残している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 27年度は法人で「虐待および身体拘束防止について」の委員会をつくり、研修委員を中心に研修を行って各事業所に持ち帰り、学習する機会をもっている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修を受ける職員が限られている。事業所内で行えていない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 行っている。利用者、ご家族には不明な点はいつでも相談して頂く様に伝えている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) ケアプランの作成時に利用者、ご家族からの意向や意見を頂いたり、ご家族の来所時には近況報告をしながら、コミュニケーションをとり、気軽に話しができる関係づくりに努めている。運営推進会議等で意見を求めるようにしている。	
			(外部評価) ご家族来訪時に、利用者ご本人の日々の状況を報告して、意見を聞くようにしている。遠くに住むご家族の希望で、月1回メールで報告しているケースもある。季刊誌「いくし便り」は、現在休止しているが、管理者は、「併設事業所と合同で発刊する」ことを考えていた。運営推進会議時には、ご家族から「職員に意見を言いやすいので満足している」との感想があった。管理者は、忘年会を催す等して、「ご家族同士が交流できる機会を作りたい」と話していた。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価)</p> <p>個別面談を行う機会を設けたり、代表は月1回のスタッフ会に出席し、ケアについても職員からの要望や意見を聞く機会が多い。ケア以外の資質の向上に繋がるような資料を準備し学ぶ機会も設けている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>今回の自己評価は、職員一人ひとりが取り組み、管理者がまとめており、「項目によって職員の理解不足を感じる」と話していた。法人内研修は、各事業所が持ち回りで担当しており、今年度、事業所は「不穏な方の対応」を研修テーマに挙げて行った。職員は「事業所のサービス向上のためには個々の職員の知識や技術向上が必要」と意見等があり、管理者は、今年度の事業所の目標の一つに「研修の強化」を挙げている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価)</p> <p>就業規則なども含めて改善に努めたり、法人内で親睦会も行っている。学びの機会も増えているが、厳しい勤務状況は改善できていないために、不満を抱えている職員もいる。</p>	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価)</p> <p>法人内で外部からの講師を招いて年間を通して、計画的に行っている。法人外の事業所との相互研修にも参加できている。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	<p>(自己評価)</p> <p>法人外の事業所との相互研修にも参加できている。法人内でも以前行っていたので、計画案が出ている。</p>	
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価)</p> <p>入居前、入居後の情報収集や日常のケアの中でも気軽に言える雰囲気作りを大事にしている。職員間で共有し、改善に努めている。特定の職員であればしっかりと、意思を伝えるなども見られる利用者もいる。利用者からのサインを見落とさないように業務に追われている日々を振り返りながら、ケアの修正を試みている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 利用開始の時は特に人間関係ができていないので、慎重な対応に努めている。本人、家族の主訴がどこにあるのかも含めて気持ちを和らげていただけるような雰囲気づくりを大切にしている。情報収集した内容についても記録し、職員間で共有している。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人、家族の主訴を見極め、意向、想いを汲み、他のサービスへの紹介をした例もある。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) できること、可能性は日々のケアの中で受身にならないように、役割、居場所づくりを考えてケアの中身をつめるようにしている。祖双方向の関係を大切に考えているが、不適切な場面もあるので、その都度、見直すようにしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 状況報告は来訪時または電話、手紙などでも伝えることもある。家族は職員に対してケアをしてもらっていると言う、気遣いや後ろめたさも感じておられることも感じる場合もあり、また、疎遠になっているケースもあるので、ご家族との距離を少しずつ、縮めながら、協力関係を築くように努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	(自己評価) 家族の場合の支援は出来ているが、現在はほとんどできていない。慣れ親しんだ地域との関係も途切れている。困難なケースも多い。 (外部評価) 利用者からお墓参りの希望があると、ご家族にご本人の意向や気持ちを伝えるようにしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 職員が介入することもなく、自然に双方の関係が出来ている時もあり、崩さないような配慮している。何となく、会話が成立したり、助け合われることも場面場面であるのでその空間、人間関係を大切にしている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 相談や支援はできていないことばかりだが、退去されて後、ご家族が、行事のボランティアをして下さっている方もある。	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日によって、本人の意向や、ペースに添えていない日もある。その都度、見直しを意識している。申し訳ないと思うことも多い。意思表示が出来る関わりは心掛けている。ケアの修正も日々、スタッフ会等で行う場合もある。 (外部評価) 利用契約時、ご家族には、利用者の生活歴や暮らしぶり、ご家族の思い等をセンター方式のアセスメント様式に記入してもらい、利用者の情報把握に努めている。日々の個別記録には、ご本人・職員・ご家族の言葉を●・○・△の印を付けて記録している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人、家族、他の事業所とうからの情報収集をしたり、入居されてからも、出来るだけ、今までの生活の延長ができるように支援を心掛け、これまで利用されたサービスの事業所からの情報提供をお願いし、事前面談の時間でも、出来るだけ多くの情報を得て、職員間で共有している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 本人、家族、他の事業所とうからの情報収集をし、整理しているが、生活が単調になることも多い。ケアが本人の心身の状況もあるが、繰り返しになっていることもある。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>ケアプラン作成に当たっては事前に本人、ご家族の意向を聴いている。特に家族の意向に変更がなかったり、現状維持を希望される場合には事業所からの提案を行っている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>介護計画は、利用者個々の担当職員が原案をつくり、職員で話し合っ作成している。毎月、職員で話し合いモニタリングを行っており、3ヶ月毎に評価と見直しを行っている。事業所では、「ご本人やご家族の希望を大切にしたい計画」の作成に努めており、「ほうほうに行きたい」という利用者の希望には、職員がごみ出しや買い物に行く際に一緒に出られるよう誘ったり、ご家族来訪時に一緒に出かけること等を計画に盛り込んでいた。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>職員によって、記録の量、内容に差があり、日常の様子が、把握出来にくい様な時もある。利用者の表情や、言動など、また、変化を記すように努めてはいる。計画の見直しにも活かされている時もある。</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>既存の対応にとどまっていることも多い。家族の状況で協力行っているが、が家族が関わっていただけるようには願っている。困難な時には相談にのる場合もある。</p>	
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>きっかけはできても、途切れてしまうことも多い。工夫が必要であるし、職員の意識が地域に向かってできていない。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 日常的に相談、報告との連携を行うよう、努力しているが、医療と介護の関係がなかなか埋まっていけない。	
			(外部評価) 同じ建物の1階にある協力医療機関の往診を個々に月2回受けている。状態により、随時の往診もあり、電話対応は24時間可能となっている。皮膚科や歯科も訪問診療してくれる。協力医療機関の看護師の訪問が週1回あり、利用者の健康管理をしてくれており、相談するとアドバイスがある。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 事業所の看護師には相談しやすい。医療との繋ぎの役割も担ってもらっているが、病院との連携には苦慮している。	
			(外部評価) 事業所の看護師には相談しやすい。医療との繋ぎの役割も担ってもらっているが、病院との連携には苦慮している。病院によって異なる。事業所側も連携をする上での知識などは平行して伝え方を学んでいく必要もあると感じている。コミュニケーションをどのようにとっていくかが、課題。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入居時に終末期の意向有無やそういう話し合いがご家族の中で出来ているかなど、事業所の方針なども説明し、考えるきっかけにもしていただいている。その時点での意向を書面に残すようにしている。	
			(外部評価) 利用契約時には、ほとんどのご家族から「ここで最期まで」と意向がある。利用者からの希望は最初は「病院へ」と希望する方もあるが、事業所での生活が長くなると「ここに居りたい」と、気持ちが変化する方も複数ある。この1年間に一名の方の看取り支援をした。看取り支援時には、介護計画を作成し、医師や看護師、ご家族、職員で方針を共有して取り組んだ。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入居時に終末期の意向有無やそういう話し合いがご家族の中で出来ているかなど、事業所の方針なども説明し、考えるきっかけにもしていただいている。その時点での意向を書面に残すようにしている。	
			(外部評価) 利用契約時には、ほとんどのご家族から「ここで最期まで」と意向がある。利用者からの希望は最初は「病院へ」と希望する方もあるが、事業所での生活が長くなると「ここに居りたい」と、気持ちが変化する方も複数ある。この1年間に一名の方の看取り支援をした。看取り支援時には、介護計画を作成し、医師や看護師、ご家族、職員で方針を共有して取り組んだ。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 訓練的にはできていない。叱咤のとき、特に新人職員には経験の多い職員がサポートをするが、必要と感じている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回の防災訓練には地域の方の参加、協力を得られているが、いろんな災害を想定して、行えておらず、身につけていない。	
			(外部評価) 年2回、消防署の協力のもと、避難訓練を実施している。6月には、火事想定避難訓練を運営推進会議と併せて行った。訓練後の意見交換時には、近隣の方から「必ず駆けつけますよ」と言ってもらった。近隣の方3名が緊急連絡網に加わってくれている。さらに、会議を利用して、災害時に事業所が地域に協力できること等も伝え、相互の協力体制づくりをすすめていってほしい。備蓄は、今後の課題になっている。	
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 排泄時や食事の時など、職員の声の大きさや対応も配慮の足りないこともある。	
			(外部評価) 管理者は、排泄に関すること等、職員の対応に配慮不足がみられると、その場で話し合うようにしている。調査訪問日の食事時、職員は、ていねいな言葉で利用者に声をかけており、利用者も笑顔で会話を楽しんでいる様子が見られた。利用者個々に、洗濯物たたみや草花の水やり等、役割を持って生活できるよう支援している。又、裁縫が得意な利用者には、雑巾を縫ってもらおう等して活躍する場面を作っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 選択できるような言葉掛けを行うように心がけている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 職員のペースや業務的になっていることもある。見直しや、振り返りは行えているが、実践できていないことも多い。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 好みを大切にしているが、本人や家族が対応できない場合、職員の好みになってしまうこともある。利用者の方も意思表示が困難な場合はより、職員の好みにおなりがち、以前の本人の姿から、選択するときもある。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食材を外注しており、献立も同じ業者が行っているため、楽しみは半減していると思う。職員が作る、朝食やおやつは楽しみにされている方もいる。 (外部評価) 業者から決まった献立で食材が届き、建物内の厨房で調理したものが届くようになってきている。朝食は、職員が事業所の台所で調理しており、味噌汁に「ソーメンを入れてね」とか、卵料理の希望を言う方もある。調査訪問日の昼食時、職員は食事介助に専念し、交代で利用者の中に入り、食事をしてきた。車イスの利用者は、膝にお盆を乗せて下膳し、職員に「ごちそうさま」と声をかけていた。	グループホームの食事支援の特長について話し合い、事業所のサービスについて利用者主体の支援が実践できているか点検する機会にしてはどうだろうか。利用者の力を活かした支援、利用者の好みや習慣を踏まえた支援等、工夫できることはないだろうか。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 把握に努めている。食の習慣に応じれていない。身体状況や力を生かせる様に見守るようにしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、介助の必要な方は全員行っているが、自立されているかたの確認は十分でない。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	<p>○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>(自己評価) 身体機能低下、四肢の硬縮等で支援できにくい人もいる。二人介助から、一人介助と、工夫しながら、本人の力を生かせる様に取り組むようになっている。状況を共有して対応。</p> <p>(外部評価) 個々の排泄パターンを確認し、重度の方は二人介助等して、ほとんどの利用者が日中はトイレで排泄できるよう支援している。便器の横に、L字型の手すりを付けており、さらに姿勢保持のため便器の左右と前面に跳ね上げ式のアームレストと背もたれを取り付けていた。トイレのドアノブに「使用中」「あき」と表裏に書いた札をぶら下げており、ご自分で反す方もある。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 漫然と下剤等を使用するのではなく、排泄パターンを把握したり、戸外にでたり、運動も心掛けている。水分摂取も気を付けている。</p>	
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>(自己評価) シャワー浴が主で湯船に浸かることが少ない。清潔を保つ意味合いの方が強くなっていると感じる。</p> <p>(外部評価) 個々に週2~3回入浴できるよう支援している。浴槽のまたぎが難しい利用者は、シャワー浴と足浴で対応している。湯温の希望を聞きながら調節している。お好きなシャンプー等を持ち込んでいる方もある。入浴を拒む方は、声掛け等を工夫しながら支援している。</p>	
46		<p>○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 長時間の車椅子使用にならないよう身体状況を見ながら対応している。日光浴、外気欲、採光などに気をつけている。環境を整えるように努めている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の情報は必ず、目を通してはいるが、副作用も把握しながら対応している。職員間で共有できていないこともあったり、職員の意識にもばらつきがある。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 何かしら、パブリックなスペースで制作したり、歌を歌ったり、散歩や、ゲームも行っているが、本人の嗜好や楽しみに即したのなっているかと言うと、そうでない場合もあるが、情報の少ない方にはきっかけ作りになっていることも多い。興味をもたれる。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 個別に対応を心掛けている。家族の協力を得られる方もいるが、地域のについてはきっかけまでにも至っていない。 (外部評価) 1月には、近所の神社に初詣に出かけている。4月のお花見は、ご家族も誘い、利用者全員で出かけており、近所のスーパーのお弁当を持参している。ドーナツショップや近所のパン屋のイートインの利用等、少人数で外出する機会が多い。利用者によっては、併設小規模多機能事業所の外出時に同行する等して、外出の機会を多く持てるよう支援している。車イスの方も、近くのコンビニでお菓子等の買い物ができるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 所持されている方もいたが、今は家族及び事業所が管理している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 職員が間に入り、やりとりを継続できている方もある。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 季節の環境構成が得意な職員が特に空間を利用して、季節の変化を演出してくれている。代表や現場の職員も野山の自然物を持参して、季節を感じてもらおうようにしている。トイレや風呂は目印をつけている。段差もテープ等で意識していただけるようにしている。</p> <p>(外部評価) 事業所は2階部分に位置している。居間から出られる広めのベランダがあり、プランターの草花の手入れや日光浴をしたり、時にはおやつを楽しむ機会を作っている。食堂には、2台の食卓テーブルを設置して、食堂や廊下の壁に沿ってソファーや椅子を置き、好きな場所で休めるようにしている。絵や工作が得意な職員が中心になり、利用者と一緒に季節感のある作品を作り、壁面に飾っている。玄関と脱衣場にある段差には、赤や緑のテープを貼り、段差が目立つように工夫している。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>(自己評価) その日の心身の状況や意向で居室で一人の時間をつくる人もいる。利用者同志で会話の空間ができている場合は見守る。職員はあまり、介入しないようにしている。</p>	
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 本人の慣れ親しんだものや家族の写真や仏壇など持ち込まれている。</p> <p>(外部評価) ご自宅から使い慣れたタンスを持ち込んでいる方は、ご自分で「肌着」や「ズボン」等と書いた紙を引き出しに貼っていた。壁面にご家族の写真や孫たちの写真を飾っている方もいる。調査訪問日、昼食後には居室に戻り、ベッドに横になってテレビを見ている方がいた。又、ご家族の来訪があり、居室の掃き掃除をしている様子が見られた。お昼の時間は、持参したご本人の好物を一緒に食べて過ごしていた。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>(自己評価) 出来ている方もおられる。ご本人にとっては死角になる場所も居心地良さを感じられている。さりげなく、様子を見て、安全確認をするようにしている。外へ一人で出られる方もいた。夜間のみ施錠している。</p>	